

THE SHINGASHI BASIN NEWS

新河岸川流域しんぶん

発行 ●新河岸川流域川づくり連絡会（荒川下流河川事務所 調査課内）
住所 ●東京都北区志茂5-41-1 TEL03-3902-3220 FAX03-3902-2346
発行日 ●2005年（平成17年）6月6日

VOL. 32



切り絵 毛利将範

6月になりました。今年の春は寒暖の差がはげしく、読者の中には体調を壊された方もいらっしゃると思いますが、季節は少しずつ夏に向かっていくようです。

とはいえ、梅雨入りはこれからで、この後は雨の続く日も多くなることと思いますが、梅雨空の合間の晴れの日には、お近くの川に出かけ、川遊びや川辺の散策を楽しまれてはいかがでしょうか？キラキラ光る水面や川を渡るそよ風の心地よさに、きっと体調も良くなることと思います。

新河岸川流域の各河川は、6月～7月も、イベント盛りだくさんで皆さんをお待ちしています。

目次

- P2-4 特集：第6回 川づくり見学会
～ 荒川下流見学会（河川敷）～
- P5 レポート：下平井水辺の楽校「新池開き」
- P6-7 レポート：春の新河岸川を歩こう！
「川まつりー春ー2005」
- P8 流域イベント・インフォメーション
事務局便り

第6回 川づくり見学会 「荒川下流見学会（河川敷）」の報告です！

去る3月19日（土）に第6回の川づくり見学会を実施しました。

今回は1月に行った船からの荒川見学とは異なり、普段は車が走行しない河川敷をバスで移動し、荒川下流における環境への取り組みについて見学しました。

また、ワンド等の自然再生に取り組む市民の方々に、活動のポイントや行政との協働の状況などを説明してもらい、荒川をフィールドとした市民活動への理解を深めました。



① 北区野球場水辺の自然（イベントスポーツエリア内）

2005年4月に完成が予定されている北区野球場水辺の自然の2つの池の造成場所を見学しました。北区荒川クラブ代表の太田桐さんから、自然池の必要性や池のゾーニング、水の出入りなどについて説明がありました。



② 河原町原っぱ

河原町原っぱでは、かわぐちちっ子荒川クラブの皆さんからお話を聞きました。従来グラウンドだったところに自然とふれあえる場所をつくろうとの市民会議の提案を受けてつくられた原っぱだそうです。



③ 都市農業公園

農作業や自然観察会などの自然とふれあう体験を通じて、自然に親しみ、自然の仕組みを理解する機会を提供することを目的につくられた公園で、スーパー堤防事業にあわせて整備されました。



④ 葛飾あらかわ水辺公園

「生き物とふれあえる公園」をテーマに川本来の姿を復元するため、湿地や原っぱ、池やワンドをつくった水辺の公園です。「湿地ゾーン」「広場ゾーン」「生物ゾーン」「水辺ゾーン」の4ゾーンに区分されています。



⑤ 五色池

五色池では、荒川クリーンエイド・フォーラム事務局長の佐藤さんから、絶滅危惧種のタコノアシをはじめ、五色池に生息する動植物などのお話を聞きました。参加者は佐藤さんの許可を得て、珍しいタコノアシの種を持ち帰っていました。



※4頁に続く

なお、今回は見学会のみで交流会は実施しませんでした。

今回の見学会が新河岸川流域の川づくり活動に役立つことに期待します。

この見学会・交流会は、新河岸川流域フォーラムと並行して継続的に活動を行うことで、川づくりへの市民の関心の醸成、また、団体間における情報交換・交流等の促進に期待し、各河川での川づくり活動の充実に資することを目的としています。



⑥小松川自然再生試験工事

直立矢板とコンクリートブロックの既設護岸撤去し、緩やかな水際を創出してヨシ原や干潟の再生を図る試験的な事業で、消波対策として木工沈床を設置しています。矢板やコンクリート殻を再利用し、資源のリサイクルにも努めました。

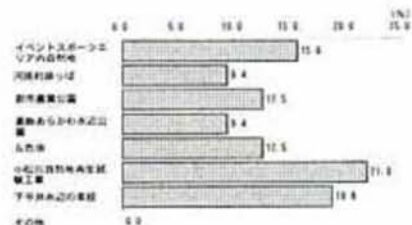


⑦下平井水辺の楽校

下平井水辺の楽校は、2001年1月に完成した荒川の水辺で遊ぶ子どもと大人の会です。ここでも佐藤さんから、造成した池や干潟の話、また、ここで遊ぶ子供たちの様子などについてうかがいました。

アンケートで見る参加者の意見など！

こちらは、見学会当日の参加者に記入してもらったアンケートの集計結果です。



Q1：今回の見学会で何が印象に残りましたか？

最も印象に残ったのは「小松川自然再生試験工事」の21.9%で、次いで「下平井水辺の楽校」の18.8%、「イベントスポーツエリア内自然再生」の15.6%となりました。

Q2：今回の見学会全体へのご意見・ご感想をお聞かせ下さい！（自由回答）

- ・荒川の親水空間と中川の護岸の違いにちょっとショックをうけました。もう少し中川にも自然が取り入れられないものかと思いました。
- ・荒川では住民参加の成果が少いように見えたが、住民に大変な負担がかかっているようにも見えた。
- ・環境への取り組みが、荒川という大きな空間があって初めてできるのだと思いました。また、行政だけでも、市民だけでも、自然再生はできないのだと、改めて実感しました。市民の提案を受け入れる素地がある所と、そうでない所の違いも感じました。
- ・日ごろは見られない所を見せていただきありがとうございました。イベントスポーツエリア内自然地の事前調査を細かくやっている点は大切な事だと思いました。
- ・川に磯のにおいのする砂地があるとは意外でした。また、下平井水辺の楽校に何も手が加えられていない砂地がかなり広く残っているのは、下流に礫のつまったもの（木工沈床）ができたからでしょうか？自然に少し手を加えるだけで、思いもかけず様々な流れができ、変化が生じることを改めて実感しました。

下平井水辺の楽校「新池開き」

ゴールデンウィークの初日、4月29日（金）の晴れ渡る青空の下、下平井水辺の楽校の新池開きが行われました。

まずは、セレモニーとして、地元の小学生が水辺の楽校への思いを書いた作文の発表と、テープカットが行われました。とはいえ、子供たちにとって式典などは何処吹く風。何人かは既に新池に入って、魚とりをしたり池の周りを走りまわっていました。

当日の遊びは、ボート遊び、釣り、タモ網や投網での魚とりと盛りだくさん。投網ではボラの稚魚がたくさんとれていました。

この池の管理を任されている下平井水辺の楽校の運営委員、佐藤さんにうかがったところ、活動は主に第2土曜日で、水が多い時はボート、少ない時は新池の少し下流で干潟遊びを実施しているとのこと。また、水辺の楽校で用意するのはボートや投網、干潟遊びの道具などで、子供たちは各自自前の遊び道具を持ち込んで自由に遊んでいるようです。

子供たちに自由に川や池での遊びを楽しんでもらう、これが水辺の楽校の主旨でもあるようです。



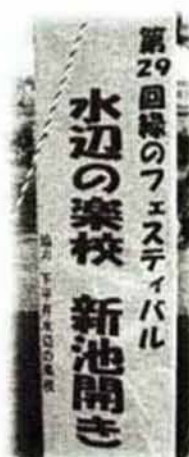
荒川下流河川事務所長（左から2番目）も新池開きに駆けつけました。



ボートに乗って遊ぶ子供たち。楽しそうに歓声をあげていました。



こちらはタモ網での魚とりにチャレンジする子供たちです。足を使って上手く魚を追い込めるかな？



投網では何の魚がとれたかな？大人も子供も興味津々です。



こちらでは投網の指導が行われていました。皆、真剣に学んでいます。

荒川クリーンエイド・フォーラムとは..！

荒川放水路ができて今年は30年目です。荒川クリーンエイドは流域住民が知恵と力を出し合って荒川の自然を回復する運動です。荒川でのゴミ拾いを中心に水辺の楽校の運営支援などを行っています。ゴミ拾いへの参加者はこの10年で56,000人を超えました。ゴミを種類別に数えながら拾うことでゴミを捨てさせない対策が可能になります。ヨシ原に捨てられたり漂着したゴミを取り除くと、ヨシ原が元気になって水を浄化し、様々な生き物のすみかにもなります。

（問合せ：TEL 03-3654-7240/FAX 03-3654-9188）

春の新河岸川を歩こう！

黒目川に親しむ会の皆さんと 春の新河岸川を歩いてきました！

黒目川に親しむ会が企画した今年の春のウォーキング企画は新河岸川です。

去る4月24日（日）、晴れ渡る青空の下、参加者35名で新河岸川の内間木橋から柳瀬川の富士見橋までの約7kmを歩きました。

集合は東武東上線の朝霞駅。まずは市内循環バス「わくわく号」に乗り、新河岸川に近い根岸台四丁目下車します。

停留所にほど近い、せせらぎの流れる遊歩道まで移動し、地図の配付と諸注意の説明を受けた後、ウォーキングのスタートです。早速、朝霞水門に向けて歩き出します。

朝霞水門が見えてくれば新河岸川もすぐそこ、内間木

橋からは新河岸川左岸の堤防上を歩きます。

早速右手に朝霞調節池が見えてきました。ここからは埼玉県生態系保護協会の橋本さんが合流し、調節池に生息する絶滅危惧種「トダスゲ」など、貴重な植物の生息状況や保全への取り組みについて説明してくれました。

朝霞調節池の天端を再び新河岸川の堤防上を歩きます。

新生橋の上流には牛小屋がありました。武蔵野線の鉄橋を過ぎた辺りでは、堤防法面に自生するヨモギを摘む人々が「このヨモギは最高」と話していました。

草や木々の新緑と、キラキラ光る水面に包まれつつ、のん

びりと春の堤防を歩きます。

宮戸橋上流まで歩くと、川幅がだいぶ広くなりました。後で聞いた話によれば、この



右に見えるは朝霞水門。新河岸川もすぐそこです。



朝霞調節池の様子と、池内を歩く参加者の皆さんです。

辺りは、江戸時代の堤防と昭和の堤防、それに、平成になってつくられた3つの堤防が確認できる珍しい地域なのだそうです。

また、富士下橋上流はさら



宮戸橋の上流の様子。歩いているのは昭和期の堤防になります。



柳瀬川の合流点直下で天田さんの説明を聞く参加者の皆さん。

に川幅を増した河道内が地域の人々のほど良い遊び場になっているのか、たくさんの子供や家族連れでにぎわっていました。

ここからは、エコシティ志木の天田さんが合流し、この地域の人と水との関わりやいろいろの歴史建造物について説明してくれました。

その後は、新河岸川から柳瀬川へと進み、富士見橋の上流（柳瀬川駅付近）で解散になりました。

暖かな春の日差しの中、穏やかにきらめく新河岸川を歩きながら、この川の歴史や文化・人との関わりを感じることでできた素敵な一日でした。



富士見橋の上流で集合写真を撮りました。皆さん今日はお疲れさまでした。（撮影：黒目川に親しむ会／小林さん）



途中河原の月もあって、解散時の人数は27人でした！

「川まつり—春—2005」

去る3月27日（日）、新河岸川流域では初の試みとなる「春」の川まつり「川まつり—春—2005」が開催されました。

当日は初夏を思わせるような暑い日差しの降り注ぐ絶好の「川遊び」日和でしたが、残念ながら今回の「川まつり—春—2005」では、参加者に川に入ってもらえるような魚とりやボート乗りは成りを潜め、その代わりに「展示コーナー」や「体験コーナー」、まつりならではの焼きそば等の「販売コーナー」が、埼玉県朝霞県土整備事務所の駐車場にとりこめられ、好天の下、散歩や所用で会場の近くまで出てきた人々の「目」と「鼻」にうったえかけていました。

人気は展示コーナーにある「黒目川の魚たち」です。「自分たちの住む近くの川にこんなにたくさんの種類の魚がいたなんて」と、まつりに立ち寄った方も驚きを隠せない様子でした。

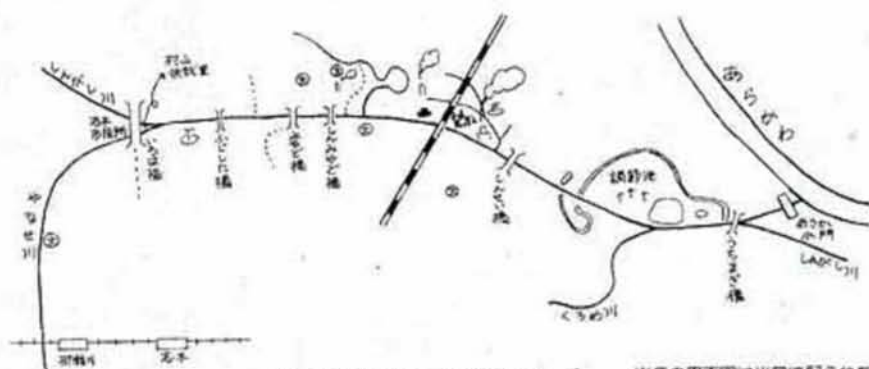
今後も2回、3回と開催されることに期待します。



水質調査には、たくさんの子供たちが参加していました。



こちらは投網の体験。県南漁協の代表が指導してくれました。



新河岸川ウォーキングマップ

※この平面図は当日に配られたウォーキングマップです。参加した子供にも分かり易いように、文字や絵が工夫されていますね！

